

# 話すこと・聞くこと

## 第1学年

状況に応じて話を構成して話し、自分の考えとの共通点・相違点を整理して聞くこと

### つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

話す側に情報量の過不足があり、聞く側にも情報をくみ取る姿勢に不足がある。

論題…『学校の昼食は弁当が良い。賛成か反対か。』

「お弁当がよいと思うのは、自分の好きなものが入っていたり好きな量だけ食べられたり家の人の愛情が感じられたりするときによいと思います。なぜなら、自分の好きなものが入っていると嬉しいし、食べていて楽しいからです。給食だと残したらいけないから食べられないと思った時につらいし、お弁当だと残しても大丈夫だからです。頑張って作ってくれている家の人の姿をみると愛情が感じられます。」

聞く側はメモを取っていない。

情報量が多く、聞きやすい発言ではない。

### 実践の概要

単元名

話題や方向性を捉えて話し合おう

『話題や方向性を捉えて話し合おう』光村図書

目標 集めた情報を整理し、自分の発信した情報が説得力をもつように話す。

メモを取ることで相手の伝えたいことの要点を逃さずに聞く。

内容 ・自分の意見に合った資料を集める。

・伝えたい内容を整理する。

・模擬ディベートを行い、話し方・聞き方を確認する。

### 学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第3学年	言葉の響きやリズムを味わいながら朗読しよう	相手や場に応じて自分の考えを工夫して話し、相手の表現から自分の考えをよりよいものにするように聞くことができない。
第2学年	登場人物の立場を理解し、心情を話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見を具体的にし、話し合い等で自分の意見を整理して伝えることができない。</li> <li>相手の意見を踏まえて自分の考えをもつことができない。</li> </ul>
第1学年	話題や方向性を捉えて話し合おう	話す側に情報量の過不足があり、聞く側にも情報をくみ取る姿勢に不足がある。

### 単元末の目指す姿

- 自分の意見を明確にし、体験・資料などの事実に基づいて意見を発表することができるようになる。
- 相手が発表する際、必要に応じてメモを取りながら、相手の伝えたいことに注意して聞くことができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

ワークシートを用いて集めた情報をまとめ、意見や根拠として発言の内容を整理させる。

活動のねらい▶ 伝えたいことに基づいた情報になっているかどうかを検討することができる。

ここが  
ポイント

- テーマについて意見を一致できるように、立論文の骨子を班員全員で考える。
- 立論したものを軸にして意見や予想される反論を考える。
- 相手の発言を想定し、考えられるパターンをすべて書く。

ワークシート

			骨子
			根拠となる 情報
			予想される 反論
			反論に対する 意見・情報

※個々の情報だけでなく、「骨子」「情報」「反論」「意見」がつながっているかどうかについても検討する。

(期待される生徒の姿)

生活体験や資料から考えた自分の意見を書き、班内で意見交換をすることで、資料のとらえ方や自分の意見を深めることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

★深い学びにつながる実践

ディベート本番に向けて、グループで練習し、情報の提示のしかたなど、相手を説得させるための発言になっているかどうかを検討する活動を取り入れる。

活動のねらい▶ 相手を説得するための話の構成や内容について理解を深めることができる。

ここが  
ポイント

- 逆の立場に立って聞き、説得させられる内容になっているかどうかを検討させる。
  - グループで検討する前に、既習事項を想起させ、「構成」「情報量」「話し方」等、検討する視点を確認する。
- ※情報量が多すぎると主張が伝わりにくくなることを確認する。

グループでの練習

逆の立場になって聞くと、その情報だと納得しないと思う。



先に結論を述べて、順序を表す接続語を使っているから、伝えたいことがわかりやすい。

(期待される生徒の姿)

- 反対の立場からの意見も考えることで、どのような意見を提示すれば相手を納得させられるかという見通しをもつことができる。
- 検討を通して、自分の発言を客観的に振り返り、ディベートに反映させることができ、深い学びにつながる。